

- 理解を求めた上で、解決に向けての連携を図る。
- K男に対して……K男が心を開きやすい担任が面接を行い、K男の傷ついた心を癒すとともに、自己肯定の心を育む。
  - B男たちに対して……B男たちから信頼を得ている養護教諭が、個別面接とグループ面接を行い、自分たちの行為を見つめさせ、K男の気持ちを思いやることができるようにする。
  - 学級に対して……いじめは非人間的な行為であることを指導するとともに、互いを認め合う学級作りを通して「観衆や傍観者」をなくす。

#### 4 指導援助の経過

##### 【K男への指導援助】

担任がK男の傷ついた心を、受け止め支える面接を行った。

K男との面接	
《担任》	《K男》
「つらかったろう」	「…（うなずく）」
「よかったら、その気持ちを聴かせてくれないかな」	「…（長い沈黙）… …だれも……」
「だれも……」	「だれも、助けられなかった。……心配かけたくないから、家族にも言えなくて……」
「話したくても、話せないとつらいよね」	「……う～ん……」
「よかったら、先生に聴かせてくれない？」	「……仕返しが……怖くて……」
「仕返しが……怖い」	「（うなずく）… きっと、前よりひどくなりそうで、それが怖くて」

「う～ん、そうか。」	「…（沈黙）…」
でも、先生方全員で、君のことを守るから、心配しないでいいよ」	
「君は、先生にとって大切な生徒なんだよ」	「…（うなずく）」

このように心を癒すことに焦点をあて、つらい心を受け止めた。その後、K男の良さを認め、励ますことを中心にして面接を継続した結果、K男の心はしだいに癒され安定が図られ、明るさを取り戻していった。

##### 【B男たちへの指導援助】

B男たちに対しては、心を受け止める個別のカウンセリングにより不満を解消しながら、いじめの要因や背景を把握した。その後、自分たちの行為を見つめることを通してK男の心の痛みや苦しみを理解させ、K男の気持ちを思いやる心を育むことをねらいとしてグループでの面接を数回行った。初め、B男たちはお互いけん制しあっていたが、養護教諭が「君たちが今の気持ちを話すことは、とても大切なことなんだよ」というメッセージを投げかけつづけた結果、しだいに心を開いていった。

B男たちへのグループでの面接	
（B男のグループは、他にC男 D男で構成される。）	
《養護教諭》	《B男たち》
「君たちの今の気持ちを聴かせてくれないかな」	全「…（沈黙）…」
「君たちが考えてる こと、とっても大事なことだと、先生は思うよ」	全「……（長い沈黙）……」
	C「…（しぼり出すような声で）… かわいそうで…」